



特定非営利活動法人

子どもの村東北

発行：2017年7月14日
発行責任者：飯沼一宇
仙台市青葉区中央2-7-30角川ビル402

News Letter Vol.17

■ 第6年度（2017年度）総会が開催されました

2016年度事業報告

6月24日（土）、NPO法人子どもの村東北第6（2017）年度総会が仙台市福祉プラザ（仙台市青葉区）で開催されました。昨年度は、法人設立から5年目の節目の年度であり、子どもの村オープンから2年が経過し、子どもの受け入れを核とする村運営事業の進展と人材養成や関係機関との協働事業、子どもの村の広範な広報活動などを積極的に展開することを目指したことが報告されました。子どもの受け入れについては、長期委託が3家族で6名（年度末3名）、短期委託（一時保護等）が20名でした。また、人材養成としては2016年9月に1回、共同事業としての絆フォーラムは2016年6月と2017年2月の2回計画通り開催したことでも報告されました。このように年度前半においては、ほぼ初期の方針に沿って活動を進められましたが、年度後半に入りて村において育親やスタッフの入れ替わ

りを余儀なくされたこともあり、新たなメンバーでのチームビルディングを実施し新体制を構築したことも報告されました。

2017年度事業計画

今年度の計画としては、子どもの受け入れについては各家庭さらに1人の里子の受け入れを見込んでおり、短期預かりの子どもも積極的に受け入れていくことが提案されました。また、センターハウス事業の展開と支援会員増強・支援組織の構築などを図ることも提案され承認されました。

また、法人事務局の所在地（青葉区中央）を子どもの村所在地（太白区茂庭台）に移転し、組織運営の強化・効率化を図ること。家族の家の追加建設（1棟）計画に着手し、具体的な計画案の検討を進めること。さらに、SOS子どもの村JAPANとの組織統合に向けた取り組みを着実に進めることなども提案され、満場一致で承認されました。



2016年度会計報告

収益に関しては、支援会員寄付が目標の8割にも満たなかったこと、一般寄付も目標を大きく下回り目標の6割に届かなかつたことなどから、当初予算の7割を下回る収益に終わったものの、支出において事業費・管理費共に引き締めた運営を行った結果、次期繰越金は18,216,116円と前年対比88.7%に抑えることが出来たことが報告されました。

2016年度 収益の部	実績
1. 会費収益	315,000
2. 支援寄付金収益	11,095,672
3. 一般寄付収益	29,304,346
4. 遺贈	1,000,000
5. チャリティイベント寄付	705,044
6. 助成金収益	5,002,731
7. 飲料自販機寄付	294,981
8. 募金	891,209
9. 事業収益	76,000
10. 行政補助	0
11. 建設資金積立取崩	12,645,395
12. 雑収益	384,731
13. 前期繰越金	20,532,163
合計	82,247,272

詳しくはHPでもご覧頂けます。

2016年度 支出の部	実績
1. 事業費 ①子どもの村運営事業（¥28,144,470） ②人材養成事業（¥1,021,090） ③里親支援事業（¥0） ④協働事業（¥470,383） ⑤広報事業（¥6,463,810） ⑥子ども支援・システム研修開発（¥0） ⑦子どもの村建設事業（¥7,966,936）	44,066,689
2. 管理費 ①人件費（¥4,083,240） ②福利厚生費（¥1,124,306） ③旅費交通費（¥2,459,130） ④通信費（¥286,298） ⑤会議費（¥52,953） ⑥事務所費（¥1,991,511） ⑦消耗品費（¥702,415） ⑧雑費（¥186,238）	10,886,091
3. 子どもの村建設資金積立支出	9,078,376
4. 次期繰越金	18,216,116
合計	82,247,272

■ 村を訪れてくださった方の中から



6月10日（土）
関東学院大学のボランティアのみなさま



メッセージを頂きましたのでご紹介します

「子どもの村東北へは、一昨年度より、大学生やボランティア団体の方々と訪問させていただいております。訪問の目的は、農作物づくりやものづくりを通して、多様な繋がりをつくるいくことにあります。活動に参加している大学生の声を紹介します。」（横地先生）

「今回は、ピーマンやナスなどの農作物を子どもの村東北の畑に植える活動をしました。外で作業をするには絶好の天気の中、村長さんにご指導をいただきながら楽しく作業が出来ました。以前にもお伺いさせていただきましたが、あたたかい雰囲気は変わっていませんでした。村長さんをはじめ職員の方々が一丸となって支援に取り組んでいらっしゃるのを改めて実感させていただきました。私たちも社会資源として、お役に立てればと思います。」（大学4年のSさん）

「今回の訪問では村長さんに村や子どもたちについてのお話を伺い、畑の雑草抜きやカボチャなどの苗を植える活動をしました。今回植えた苗はまだ小さく葉だけですが、成長し実をつける日が来るのを村のみなさんと一緒に見守っていけたらと思います。」（大学4年のHさん）

6月13日（火）
宮城中央ヤクルト販売株式会社さま



6月13日（火）、宮城中央ヤクルト販売株式会社 代表取締役 永富淳次様と広報担当の片岡恵様が来村されました。宮城中央ヤクルト販売様は、開村前から毎年ご寄付をくださっています。

永富社長から「困難も数々あると思うが、子どもを家庭的な環境で育てることは本当に大切なことと思い、応援している。これからも、わたしたちにできるだけの支援を続けていきたい」と心強いメッセージをいただきました。皆様の温かなご支援に感謝して、子どもたちのために日々の活動を続けて参ります。



理事リレーコラム

「太白山のふもとから」



理事 宮本 武

△ ある夏の日の光景

夏休みに入って毎日暑い日が続いているある日の午後、踏切に続く長い坂道を一人のお婆さんが両手に大きな荷物を持って、汗だくで登って行きます。

その後から4～5人の子どもたちがわいわいがやがやとふざけながら、そのお婆さんを追い越して行きました。すると、その中の一人がつかつかと後戻りして、お婆さんのそばへ行くと、いきなり「おばあちゃん、荷物持ってけっから」と言って、あっけにとられてポカーンと口を開けているお婆さんの手から荷物を取り上げました。前を歩いていた子どもたちは後ろを振り返って「マサオ、何してんのや」マサオと呼ばれた子どもは「おめだづ、この荷物持って

けっぺや」「タケちゃん、なづすっぺ」「そんなごとったってや時間ねえんだぞ、遅れっぺ」「いいでば、走つていけば間に合う、手伝うべ」「んだなタクミ、手伝うべ」子どもたちは「おばちゃん、持つてけっから」「おめ、おばちゃんば押してげ」お婆さんは「どうもね。んだけっとそんなに押されだら転ぶでば」。お婆さんを真ん中にした子どもたちはわいわいがやがや坂を登つて行きました。その飾り気のない会話の中にほのぼのとした暖かさを感じました。

さて、これは私の作ったショートストーリーです。このような光景を日々暮らしの中で見つけることがありますか？

音楽でつながる、支援の輪に感謝

杜のホールでミニコンサート



5月7日（日）、アンサンブル・コア・ドゥ・ロゾーのみなさま（ダビッドヤジンスキ様、山岸亜貴様、石川晃様）による「葦の響きコンサート」が開催されました。演奏で使われたクラリネット・オーボエ・ファゴットは葦で作られるリードを振動源とする楽器で、同じリード楽器の仲間なので、アンサンブルをしたときに、とても澄んだ美しい音色がホールの中に響きわたりました。素敵なひと時を過ごすことができました。コア・ドゥ・ロゾーのみなさまには、これまで何度もコンサートの際に募金を呼び掛けいただきなどご協力いただいております。重ねて御礼申し上げます。

教会に響き渡る、支援の音色

5月27日（土）仙台青葉荘教会にて、「ダブルリード室内楽演奏会 Musikalisches Treffen 音楽を通して素敵なお会いを！」が開かれました。この日は、ドイツ・ミュンヘン市バイエルン放送交響楽団のソロイングリッシュ・ホルン・オーボエ奏者マリリーズ・シュップバッハ様が招かれ、オーボエ奏者・山岸亜貴様、ファゴット奏者・石川晃様（新日本フィルハーモニー交響楽団）のアンサンブルによる演奏会でした。この演奏会の為に来仙されたマリリーズさんは、6年前に東日本大震災が起きてから、遠くドイツで被災地を思って心を痛めていたこと、そして、仙台に来て演奏することができた喜びを話され、礼拝堂は感動的な空気に包まれました。今回の演奏会では、会場の皆様から集められた募金をご寄付いただきました。皆様に、心より感謝いたします。



村だより



育親アシスタント 三品 麻衣子



早いもので今年も7月を迎えました。村の緑はよりいっそう濃くなり1年で一番爽やかな季節だと感じています。ツバメも色々なところに巣を作りました。蜂も飛び始め大きくなったりラベンダーの側で草むしりをする時は細心の注意をはらいます。

村では新しいことがたくさんありました。まずは初めての男の子がきました。やはり女の子とは運動量が違います。

外で長い間スポーツをしている姿を見ると関心しますが、相手をしようと思っても高度な動きに応援することしかできません。そして、子どもが1人自立もしました。始めての一人暮らしや仕事など育親さんをはじめスタッフも心配していましたが、月に2度センターhausに元気に顔を出してくれて新生活の報告もしてくれています。まだまだ不慣れなこともあるようですが今後も応援していきたいと思っています。最近、委託ではありませんが初めて赤ちゃんも来ました。笑顔はもちろん泣き声ですら村を明るくしてくれます。毎日みんなが赤ちゃんを気に掛けていて、男の子もニコニコと世話をしてくれます。そして新しいスタッフやアシスタントも増えよりいっそう気を引き締めて育親家庭への支援をしていくこうと思います。

当法人は、認定NPOに認定されました



特定非営利活動法人子どもの村東北は、2017年2月17日に仙台市より「認定NPO法人」として認定されました。これにより、子どもの村東北へご寄付いただくと、以下の税制優遇措置を受けることができます。なお、優遇措置を受けるためには、確定申告が必要です。

また、相続または遺贈によるご寄付の場合、相続人が認定NPO法人に寄付をすると、寄付をした相続財産が非課税になります。

なお、ご不明な点や個別のケースにつきましては、最寄りの税務署にご相談ください。

◆ご支援いただいた企業・団体のみなさま（2016.11.26～2017.6.30）

【支援会員寄付】

*敬称略・順不同

アサヒグループホールディングス株式会社、有限会社水鳥フード産業、アオイ産業株式会社、医療法人社団栗林歯科医院、有限会社白川牛肉店、株式会社メープルホームズ仙台、有限会社華丸ラーメン、日本プロパワー株式会社、株式会社AFIC、株式会社ホームユニバース、トヨタカローラ宮城株式会社、株式会社人来田興産、株式会社アルファー企画、石井小児科、特定非営利活動法人アマポーラ・オーソドンティック・ファシリテーターズ、医療法人社団原口小児科クリニック、医療法人社団静実会ないとうクリニック、社会福祉法人地域サポート虹、株式会社大観樓、株式会社クリーン&クリーン、てづくりコンサートの会、医療法人社団章仁会くさかり小児科、医療法人みやぎクリニック 仙台画像検診クリニック、三井住友海上火災保険株式会社、医療法人五十嵐小児科、医療法人ありま小児科医院、おおぬま小児科、有限会社北斗、株式会社M A T(ワンギテック(台湾)日本支社)、日本キリスト改革派白石契約教会、東北大学小児科同窓会、さくら工房株式会社、有限会社細谷ドライクリーニング工場、医療法人社団伊藤医院、株式会社日泉商事、東北会病院、ミライズ株式会社、うちやまこどもクリニック、日本インシュアランス株式会社、株式会社H・O・C、東洋ワークテクノ株式会社、東洋ネクスト株式会社、東洋ワーク沿岸特区株式会社、日本プロパワー株式会社、ながれだ皮膚科、なかがわふるさと夢工房、サンエイシステム株式会社、リブライ特株式会社

【一般寄付】

アサヒグループホールディングス株式会社、黒川地区少年補導員協会、仙台東少年補導員協会、フェアリーハンズ、青麻神社、横浜山手聖公会、長谷幼稚園保護者会、中山社会福祉協議会子ども応援隊、塩釜地区少年補導員協会、ぶらんか、仙台ニューヨーク友の会、ほのぼの童謡愛好会、仙台青葉学院短期大学こども学科、日本キリスト改革派仙台カナン教会、日本基督教団仙台五橋教会愛隣こども園、学校法人宮城学院、医療法人こだま小児科、スィーツビジョン、国際ソロプチミスト愛知ガーデニア、協栄陸運株式会社ドライバー一同、第一光の子保育園、日本基督教団鳴子教会、JAMMIN アイテム購入者一同、小牧幼稚園父母の会、DHL グローバルフォワーディング ジャパン株式会社、アメリカン・エキスプレス・インターナショナル, Inc. 暮らしに押しばなをの会、国際ソロプチミスト熊本-さくら、日本赤十字社福島県支部田村市地区有功会、日本キリスト教団巣鴨ときわ教会、仙台青葉学院短期大学看護学科2年生一同、宗教法人東大寺、南西Tシャツ俱楽部、桧原こひつじ幼稚園こひつじ基金、大河原地区少年補導員協会、子育て支援グループドリームエルリフ、SAVE SENDAI 311、仙台ライオンズクラブ、仙台中央グリーンライオンズクラブ、キャメルン出版、林間聖バルナバ教会内ピース9の会バルナバ、3.11きずなプロジェクトinはつかいち実行委員会、学校法人文京学園文京学院大学、東北新生産業株式会社、フレンドシップフォーラム、鳥取福音ルーテル教会、繁昌院、チャリティーコンサートfor仙台実行委員会、Freundeskreis Tsunami-Waisen KIBOU e.V.、林間聖バルナバ教会、医療法人すどう小児クリニック、株式会社石巻精機製作所、なかむらクリニック、トヨタエルアンドエフ宮城株式会社、トーホー家電ワーク美坂、有限会社菅原商事、サービス付き高齢者向け住宅エスペランサ、株式会社センケンホーム、カトリック藤沢教会「子どもの村東北」を応援する会、株式会社ウルズ、まつうら内科小児科クリニック、ネットトヨタ仙台株式会社、ACT すこやか子育講座仙台、仙台西ロータリークラブ、出田眼科病院、株式会社藤城運輸、ハイファイヴ英語学院、医療法人社団美春月会よりもとこどもクリニック、dialog 阿部智志、株式会社ランドマーク、宮城中央ヤクルト販売株式会社、ぬい処結、宮城トヨタ自動車株式会社、西岡クリニック、ネットトヨタ宮城株式会社、防災フェスタ in しみず、秋保町子ども会チャリティフェスティバル

◆支援会員

*個人会員 881名

*団体会員 78企業・団体

2017年6月30日現在

特定非営利活動法人 子どもの村 東北

法人 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30 角川ビル402
事務局 TEL: 022-748-6936 FAX: 022-748-6931 E-mail: info@cvtohoku.org

【子どもの村 センターハウス】
〒982-0252 仙台市太白区茂庭台2丁目16-9-1
TEL: 022-281-9653 FAX: 022-281-9659
E-mail: center-t@cvtohoku.org